

吉野川市都市計画マスタープラン策定に向けたアンケート調査
調査結果

概要版

平成23年9月

吉野川市 建設部 都市計画住宅課

吉野川市都市計画マスタープラン策定に向けたアンケート調査 調査結果（概要版）

1. アンケート調査の概要

【調査の目的】

本市の都市計画行政の総合的な指針となる「吉野川市都市計画マスタープラン」の策定にあたり、「地域の現状に対する満足度」や「将来のまちづくりに対する考え方」などに関する市民の皆様方の意向の把握を行い、計画策定の基礎資料として活用するために実施しました。

【調査方法】

市内に在住する20歳以上の男女を対象に、住民基本台帳より地区や年齢に配慮した無作為抽出を行い、郵送配布・郵送回収により実施しました。

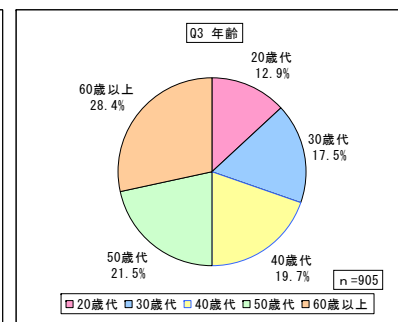
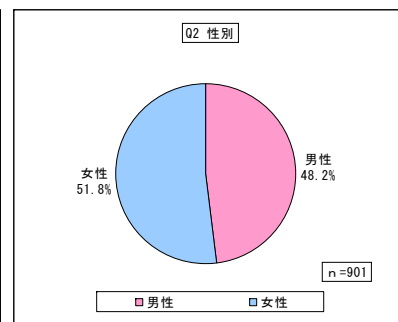
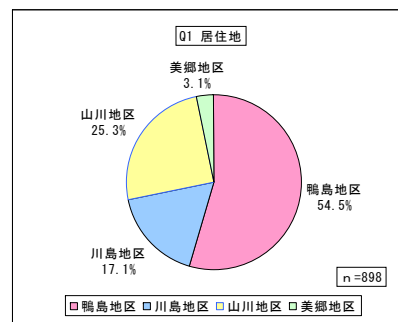
【配布・回収状況】

		配布数	回収数	回収率
全体		2,500	907	36.3%
地区別	鴨島地区	1,360	489	36.0%
	川島地区	460	154	33.5%
	山川地区	610	227	37.2%
	美郷地区	70	28	40.0%
	地区不明	-	9	-
年齢別	20歳代	500	117	23.4%
	30歳代	500	158	31.6%
	40歳代	500	178	35.6%
	50歳代	500	195	39.0%
	60歳以上	500	257	51.4%
	年齢不明	-	2	-

2. 調査結果の概要（全体）

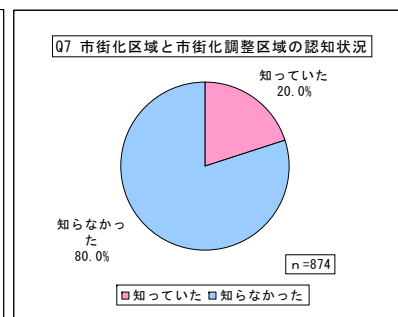
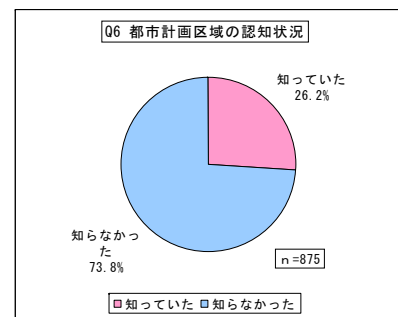
【回答者の属性】

- ・鴨島地区が54.5%と最も多く、川島地区が17.1%、山川地区が25.3%、美郷地区が3.1%となっています。
- ・「男性」が48.2%、「女性」が51.8%と、概ね同程度の回答数となっています。
- ・「60歳以上」の28.4%をはじめ、年齢層が高いほど、比率が高くなっています。年齢層に応じた配布数を一律（500票）としており、年齢層が高くなるほど回収率が高い状況となっています。



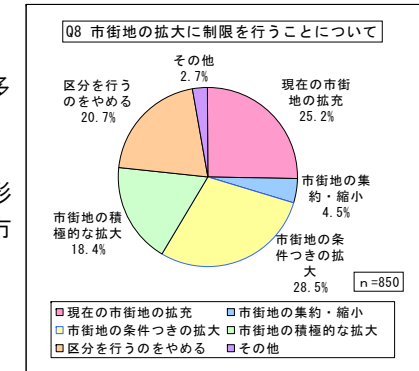
【都市計画の認知度】

- ・吉野川市の一部が都市計画に指定されていることを「知っていた」は26.2%、「市街化区域」と「市街化調整区域」の区分による土地利用の規制・誘導について、「知っていた」は20.0%にとどまっています。



【市街地の拡大に制限を行うことについて】

- ・市民の意見はわかれており、「良好な市街地の形成であれば、多少の市街地の拡大を進めるべき」が28.5%と最も多く、次いで「市街地の拡大を押さえ、今ある市街地を充実させるべき」が25.2%、「市街化調整区域の制限をなくし、一体的な市街地の形成を進めるべき」が20.7%、「まちの活性化につながるため、市街地の拡大を積極的に進めるべき」が18.4%となっています。



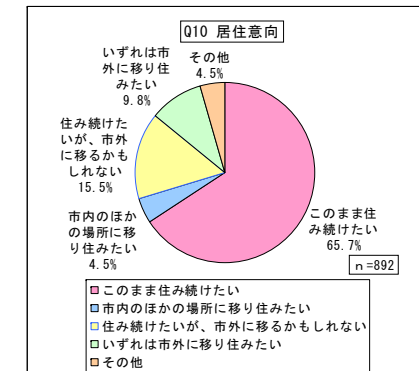
【住まいの地域の満足度】

- ・総合的な住みやすさは、「満足」・「やや満足」の傾向より「やや不満」・「不満」の傾向が高くなっています。
- ・評価が高い項目は、「住宅地としての環境」や「日用品の買物の利便性」となっています。
- ・一方、評価が低い項目は、「工場・事業所などの働く場の充実」、「観光資源・観光施設の充実」、「災害(地震・水害等)に対する安全性」、「公共交通機関(JRやバス)の利便性」となっています。



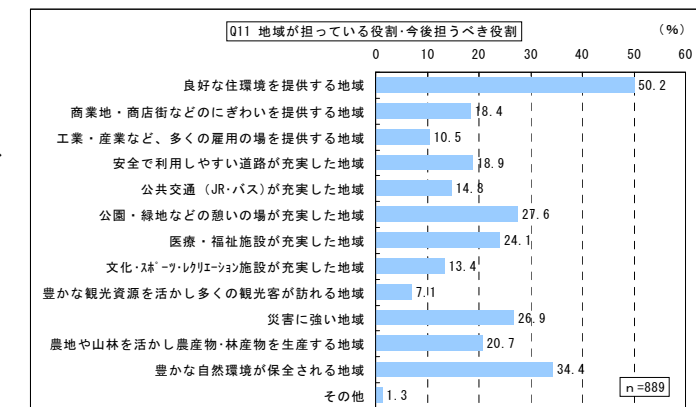
【居住意向】

- ・「このまま住み続けたい」が65.7%と過半数を超え、次いで、「住み続けたいが、市外に移るかもしれない」が15.5%と、比較的高い定住意向となっています。
- ・また、「いずれは市外に移り住みたい」が9.8%、「市内のほかの場所に移り住みたい」が4.5%と、積極的な移住の意向を有する回答者は1割強となっています。



【地域の担っている役割】（複数回答）

- ・「良好な住環境を提供する地域」が50.2%と過半数を超え、次いで「豊かな自然環境が保全される地域」（34.4%）、「公園・緑地などの憩いの場が充実した地域」（27.6%）、「災害に強い地域」（26.9%）となっています。

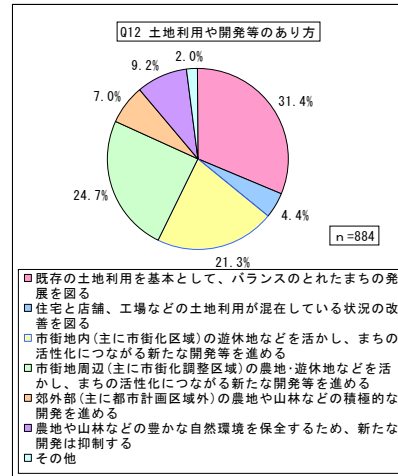


吉野川市都市計画マスタープラン策定に向けたアンケート調査 調査結果（概要版）

【土地利用・開発、公共・公益施設のあり方】

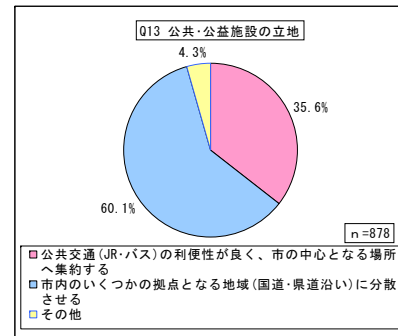
（土地利用、開発）

- ・土地利用や開発等では、「既存の土地利用を基本として、バランスのとれたまちの発展を図る」が31.4%と最も多く、次いで、「市街地周辺(主に市街化調整区域)の農地・遊休地などを活かし、まちの活性化につながる新たな開発等を進める」、「市街地内(主に市街化区域)の遊休地などを活かし、まちの活性化につながる新たな開発等を進める」となっています。



（公共・公益施設）

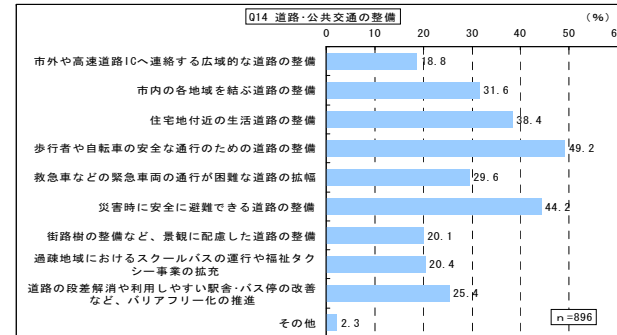
- ・公共・公益施設の立地は、「市内のいくつかの拠点となる地域(国道・県道沿い)に分散させる」が60.1%と過半数を超え、「公共交通(JR・バス)の利便性が良く、市の中心となる場所へ集約する」が35.6%となっています。



【都市施設のあり方】（複数回答）

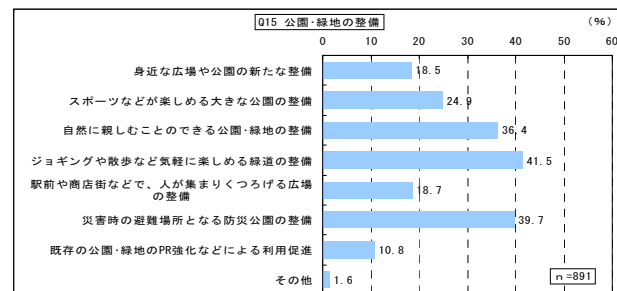
（道路・公共交通）

- ・「歩行者や自転車の安全な通行のための道路の整備」が49.2%と最も多く、次いで「災害時に安全に避難できる道路の整備」、「住宅地付近の生活道路の整備」となっています。



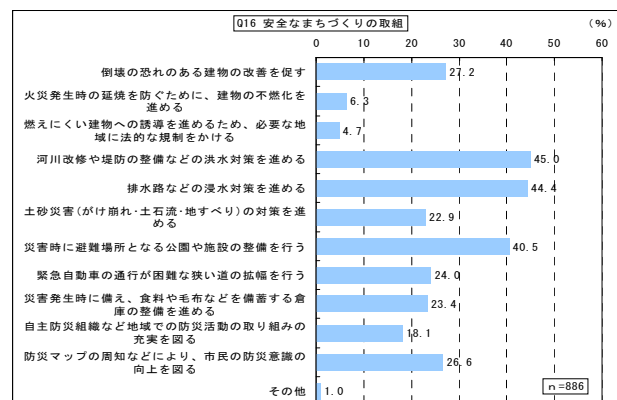
（公園・緑地）

- ・「ジョギングや散歩など気軽に楽しめる緑道の整備」が41.5%と最も多く、次いで、「災害時の避難場所となる防災公園の整備」、「自然に親しむことのできる公園・緑地の整備」となっています。



（防災）

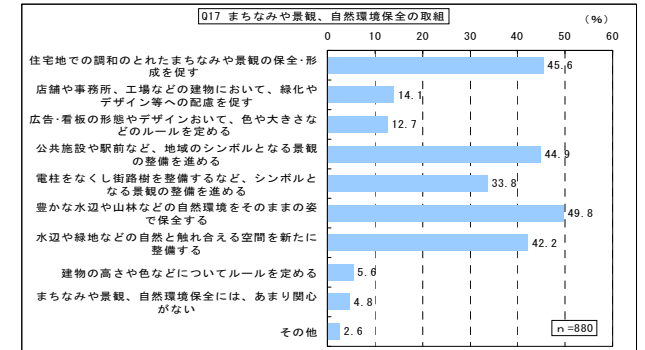
- ・「河川改修や堤防の整備などの洪水対策を進める」が45.0%と最も多く、次いで、「排水路などの浸水対策を進める」、「災害時に避難場所となる公園や施設の整備を行う」となっています。



【都市施設のあり方】（複数回答）

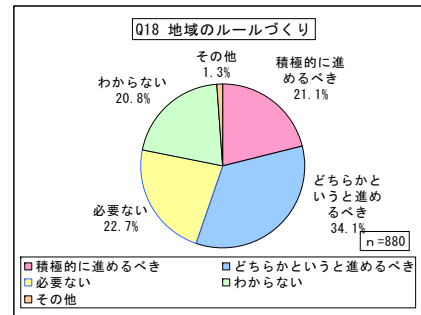
（景観、自然環境保全）

- ・「豊かな水辺や山林などの自然環境をそのままの姿で保全する」が49.8%と最も多く、次いで、「住宅地での調和のとれたまちなみや景観の保全・形成を促す」、「公共施設や駅前など、地域のシンボルとなる景観の整備を進める」、「水辺や緑地などの自然と触れ合える空間を新たに整備する」となっています。
- ・一方、「まちなみや景観、自然環境保全には、あまり関心がない」は4.8%となっています。



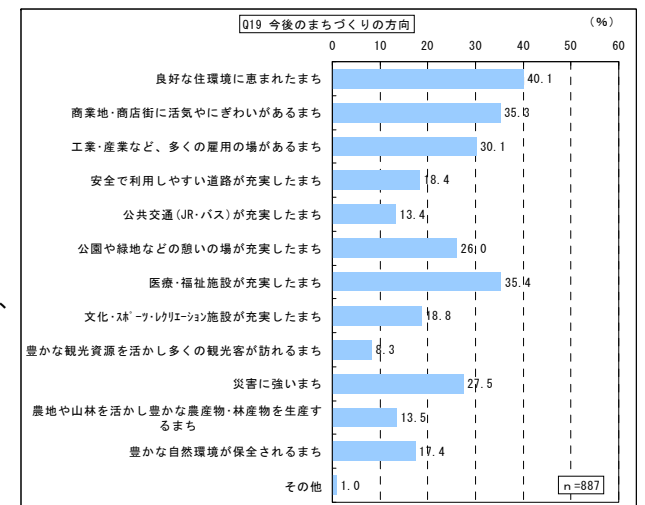
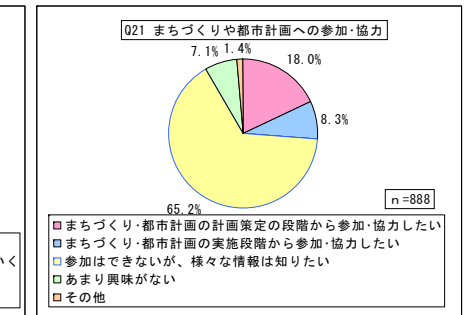
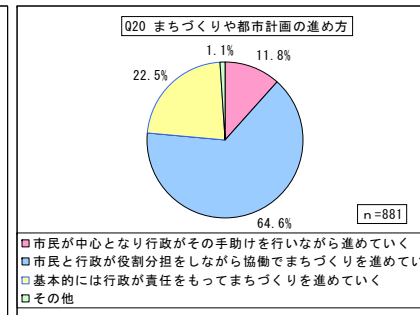
【地域独自のルールづくり】

- ・「どちらかというに進めるべき」が34.1%と最も多く、次いで、「必要ない」が22.7%、「積極的に進めるべき」が21.1%となっています。一方、「わからない」との回答も20.8%を占めています。



【今後のまちづくりの方向】（複数回答）

- ・「良好な住環境に恵まれたまち」が40.1%と最も多く、次いで、「医療・福祉施設が充実したまち」(35.4%)、「商業地・商店街に活気やにぎわいがあるまち」(35.3%)、「工業・産業など、多くの雇用があるまち」(30.1%)となっています。

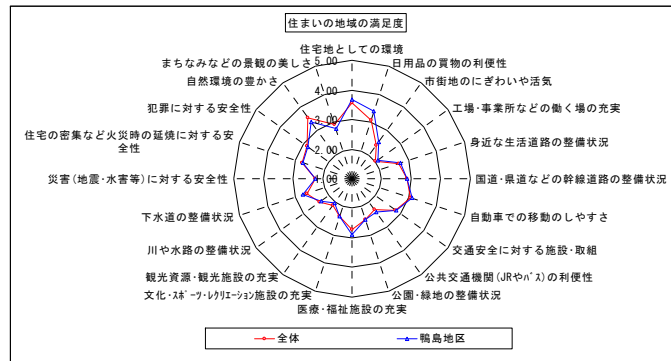
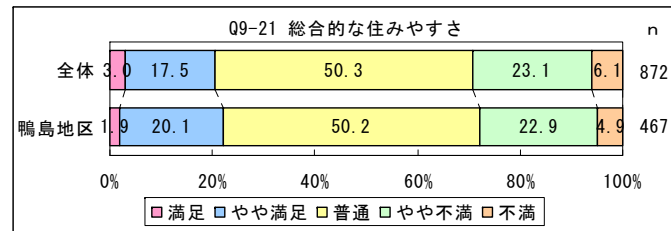


吉野川市都市計画マスタープラン策定に向けたアンケート調査 調査結果（概要版）

3-1. 調査結果の概要（地域別：鴨島地区）

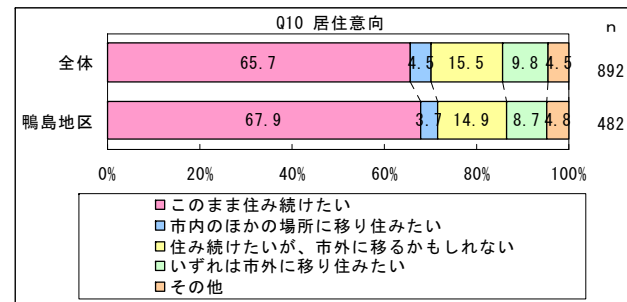
【住まいの地域の満足度】

- 総合的な住みやすさは、「満足」・「やや満足」の傾向より、「やや不満」・「不満」の傾向が高くなっていますが、市全体よりも「やや満足」の割合が高くなっています。
- 項目別の満足度をみると、「住宅地としての環境」や「日用品の買物の利便性」、「自然環境の豊かさ」が高い評価を受けています。
- 一方、「観光資源・観光施設の充実」や「工場・事業所などの働く場の充実」、「災害(地震・水害等)に対する安全性」などが低くなっています。
- 市全体との比較では、「日用品の買物の利便性」や「市街地のにぎわいや活気」、「医療・福祉施設の充実」といった項目が高くなる一方で、「自然環境の豊かさ」や「まちなみなどの景観の美しさ」、「観光資源・観光施設の充実」などの項目が低くなっています。



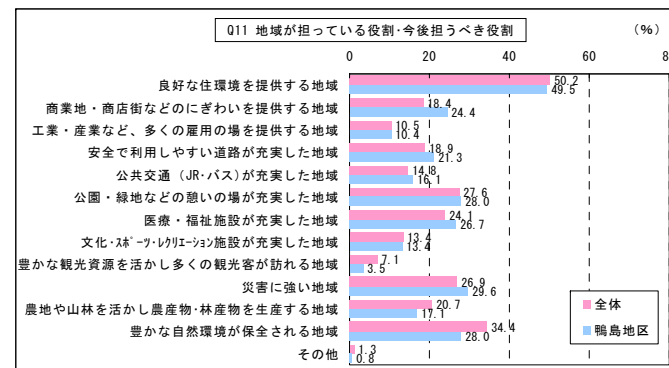
【居住意向】

- 「このまま住み続けたい」が67.9%と最も高く、市全体と比較しても定住意向が高いことがうかがえます。



【地域の担っている役割】（複数回答）

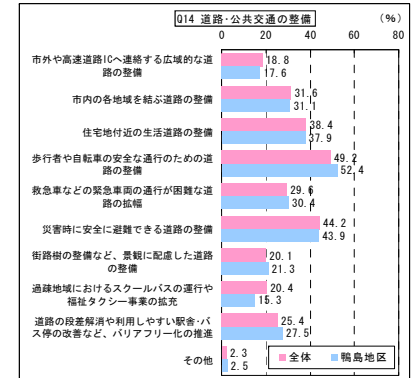
- 「良好な住環境を提供する地域」が49.5%と最も高く、次いで、「災害に強い地域」、「公園・緑地などの憩いの場が充実した地域」、「豊かな自然環境が保全される地域」となっています。
- 市全体に比べて、「商業地・商店街などのにぎわいを提供する地域」（+6.0ポイント）の割合が高くなっています。



【都市施設のあり方】（複数回答）

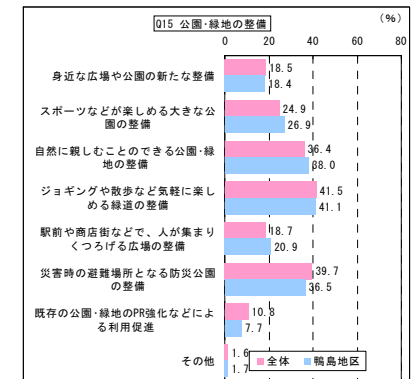
（道路・公共交通）

- 「歩行者や自転車の安全な通行のための道路の整備」が52.4%と最も高く、次いで、「災害時に安全に避難できる道路の整備」、「住宅地付近の生活道路の整備」となっています。
- 市全体に比べて、「歩行者や自転車の安全な通行のための道路の整備」の割合が高くなっています。



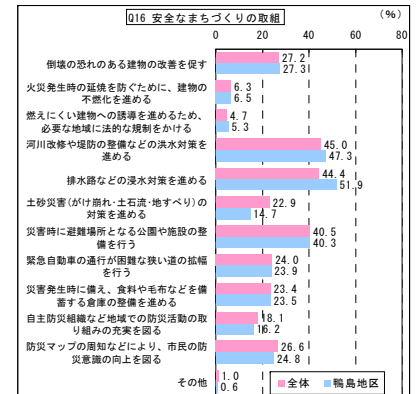
（公園・緑地）

- 「ジョギングや散歩など気軽に楽しめる緑道の整備」が41.1%と最も高く、次いで、「自然に親しむことのできる公園・緑地の整備」、「災害時の避難場所となる防災公園の整備」となっています。



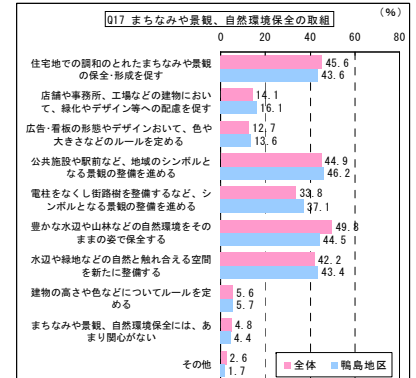
（防災）

- 「排水路などの浸水対策を進める」が51.9%と最も多く、次いで、「河川改修や堤防の整備などの洪水対策を進める」、「災害時に避難場所となる公園や施設の整備を行う」となっています。
- 市全体に比べて、「排水路などの浸水対策を進める」の割合が高くなっています。



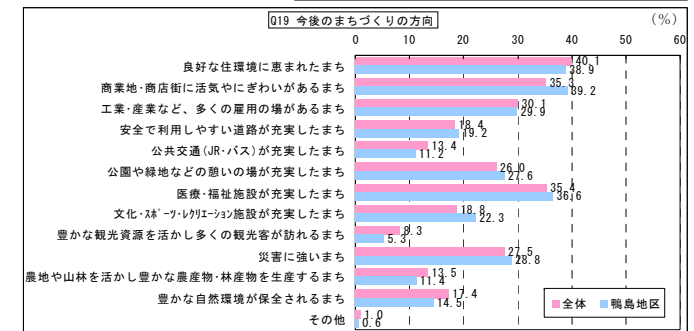
（景観・自然環境保全）

- 「公共施設や駅前など、地域のシンボルとなる景観の整備を進める」が46.2%と最も多く、次いで、「豊かな水辺や山林などの自然環境をそのままの姿で保全する」、「住宅地での調和のとれたまちなみや景観の保全・形成を促す」となっています。
- 市全体に比べて、「電柱をなくし街路樹を整備するなど、シンボルとなる景観の整備を進める」の割合が高くなっています。



【今後のまちづくりの方向】（複数回答）

- 「商業地・商店街に活気やにぎわいがあるまち」が39.2%と最も高く、次いで、「良好な住環境に恵まれたまち」、「医療・福祉施設が充実したまち」となっています。
- 市全体に比べて、「商業地・商店街に活気やにぎわいがあるまち」や「文化・スポーツ・レクリエーション施設が充実したまち」の割合が高くなっています。

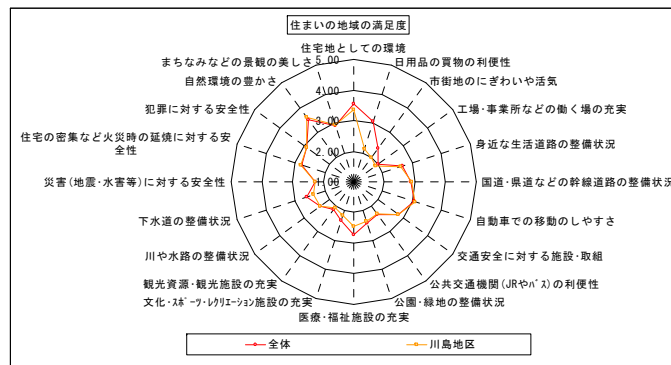
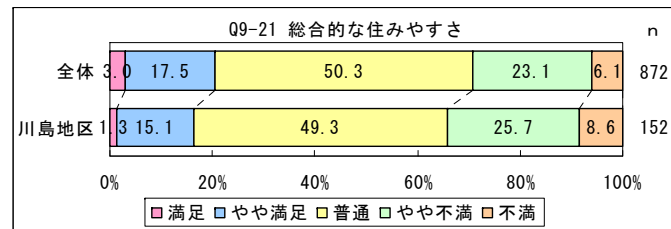


吉野川市都市計画マスタープラン策定に向けたアンケート調査 調査結果（概要版）

3-2. 調査結果の概要（地域別：川島地区）

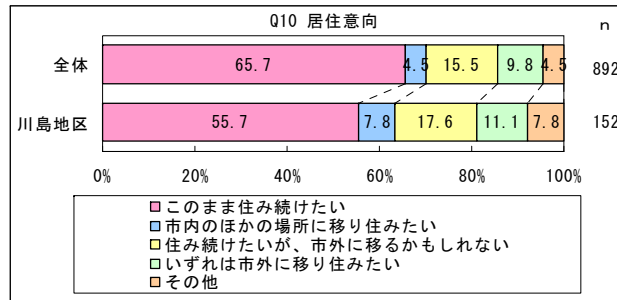
【住まいの地域の満足度】

- 総合的な住みやすさは、「満足」・「やや満足」の傾向より、「やや不満」・「不満」の傾向が高くなっていますが、市全体よりも「やや不満」・「不満」の割合が高くなっています。
- 項目別の満足度をみると、「自然環境の豊かさ」や「住宅地としての環境」、「自動車での移動のしやすさ」が高い評価を受けています。
- 一方、「工場・事業所などの働く場の充実」や「市街地のにぎわいや活気」、「観光資源・観光施設の充実」などが低くなっています。
- 市全体との比較では、「自然環境の豊かさ」や「まちなみなどの景観の美しさ」、「自動車での移動のしやすさ」といった項目が高くなる一方で、「日用品の買物の利便性」や「市街地のにぎわいや活気」、「医療・福祉施設の充実」などの項目が低くなっています。



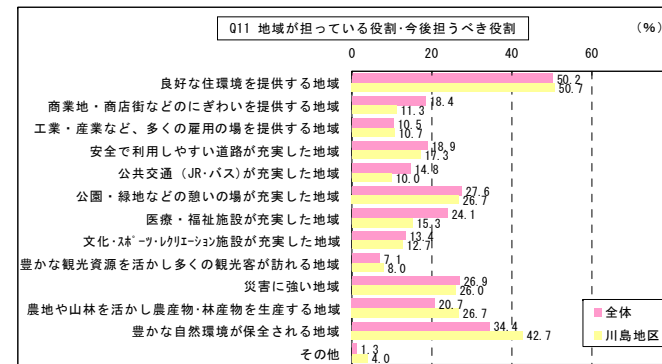
【居住意向】

- 「このまま住み続けたい」が55.7%と最も高いものの、市全体と比較して、「市内の他の場所に移り住みたい」をはじめ、地区外への転出を望む声のみうけられます。



【地域の担っている役割】

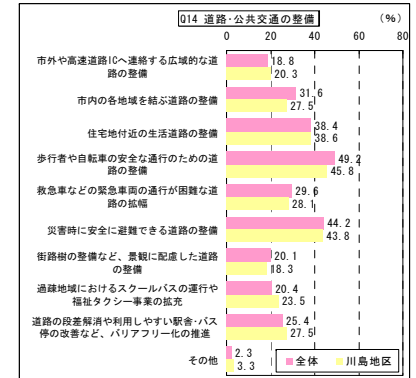
- 「良好な住環境を提供する地域」が50.7%と最も高く、次いで、「豊かな自然環境が保全される地域」、「公園・緑地などの憩いの場が充実した地域」、「農地や山林を活かし農産物・林産物を生産する地域」となっています。
- 市全体に比べて、「豊かな自然環境が保全される地域」や「農地や山林を活かし農産物・林産物を生産する地域」の割合が高くなっています。



【都市施設のあり方】（複数回答）

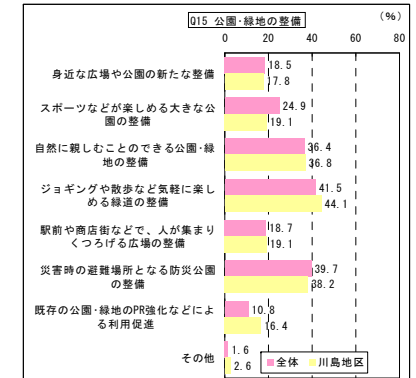
（道路・公共交通）

- 歩行者や自転車の安全な通行のための道路の整備」が45.8%と最も高く、次いで、「災害時に安全に避難できる道路の整備」、「住宅地付近の生活道路の整備」となっています。
- 市全体に比べて、「過疎地域におけるスクールバスの運行や福祉タクシー事業の拡充」の割合が高くなっています。



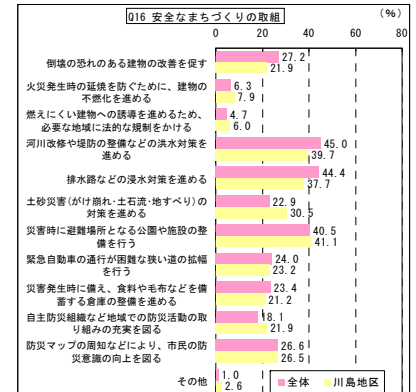
（公園・緑地）

- 「ジョギングや散歩など気軽に楽しめる緑道の整備」が44.1%と最も高く、次いで、「災害時の避難場所となる防災公園の整備」、「自然に親しむことのできる公園・緑地の整備」となっています。
- 市全体に比べて、「既存の公園・緑地のPR強化などによる利用促進」の割合が高くなっています。



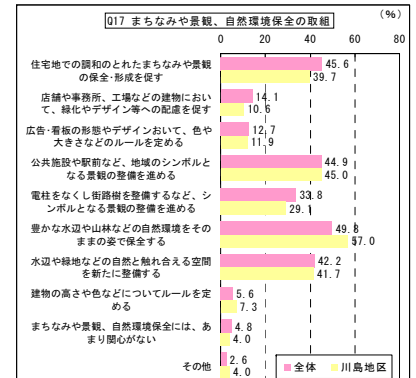
（防災）

- 「災害時に避難場所となる公園や施設の整備を行う」が41.1%と最も多く、次いで、「河川改修や堤防の整備などの洪水対策を進める」、「排水路などの浸水対策を進める」となっています。
- 市全体に比べて、「土砂災害(がけ崩れ・土石流・地すべり)の対策を進める」、「自主防災組織など地域での防災活動の取り組みの充実を図る」の割合が高くなっています。



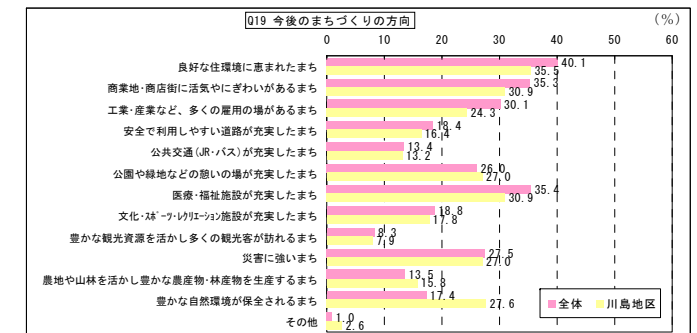
（景観・自然環境保全）

- 「豊かな水辺や山林などの自然環境をそのままの姿で保全する」が57.0%と最も多く、次いで、「公共施設や駅前など、地域のシンボルとなる景観の整備を進める」、「水辺や緑地などの自然と触れ合える空間を新たに整備する」となっています。
- 市全体に比べて、「豊かな水辺や山林などの自然環境をそのままの姿で保全する」の割合が高くなっています。



【今後のまちづくりの方向】（複数回答）

- 「良好な住環境に恵まれたまち」が35.5%と最も高く、次いで、「商業地・商店街に活気やにぎわいがあるまち」、「医療・福祉施設が充実したまち」となっています。
- 市全体に比べて、「豊かな自然環境が保全されるまち」の割合が高くなっています。

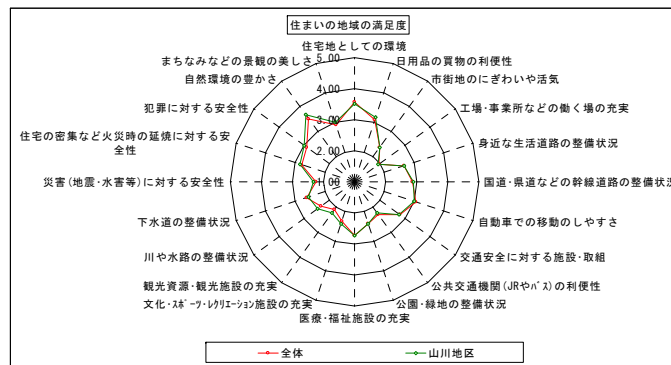
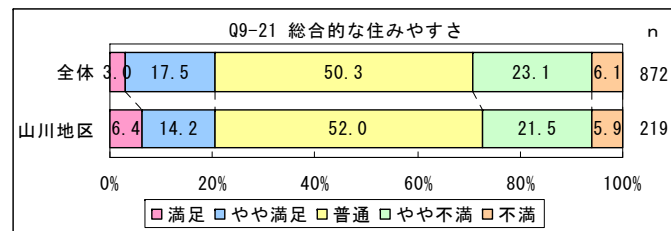


吉野川市都市計画マスタープラン策定に向けたアンケート調査 調査結果（概要版）

3-3. 調査結果の概要（地域別：山川地区）

【住まいの地域の満足度】

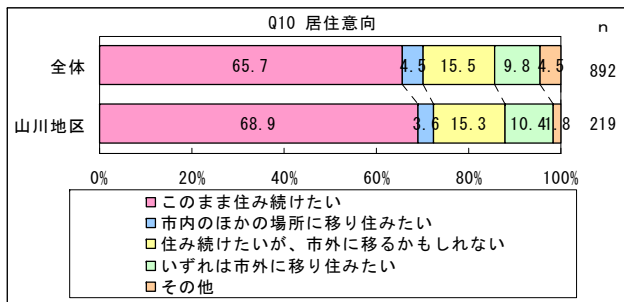
- 総合的な住みやすさは、「満足」・「やや満足」の傾向より、「やや不満」・「不満」の傾向が高くなっていますが、市全体よりも「満足」の割合が高くなっています。
- 項目別の満足度をみると、「自然環境の豊かさ」や「住宅地としての環境」、「日用品の買物の利便性」が高い評価を受けています。
- 一方、「工場・事業所などの働く場の充実」や「公共交通機関(JRやバス)の利便性」、「観光資源・観光施設の充実」などが低くなっています。
- 市全体との比較では、「自然環境の豊かさ」や「観光資源・観光施設の充実」、「文化・スポーツ・レクリエーション施設の充実」といった項目が高くなる一方で、「公共交通機関(JRやバス)の利便性」や「自動車での移動のしやすさ」、「下水道の整備状況」などの項目が低くなっています。



【居住意向】

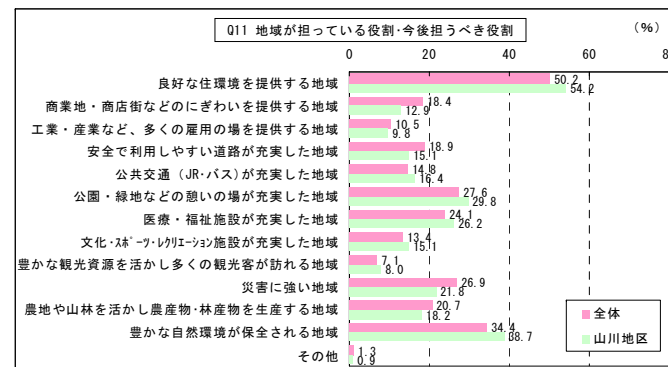
- 「このまま住み続けたい」が68.9%と最も高く、市全体と比較しても定住意向が高いことがうかがえます。

項目	得点(5段階評価)	
	市全体	山川
住宅地としての環境	3.55	3.51
日用品の買物の利便性	3.09	3.20
市街地のにぎわいや活気	2.37	2.38
工場・事業所などの働く場の充実	1.99	1.95
身近な生活道路の整備状況	2.68	2.66
国道・県道などの幹線道路の整備状況	2.86	2.89
自動車での移動のしやすさ	3.09	3.03
交通安全に対する施設・取組	2.81	2.78
公共交通機関(JRやバス)の利便性	2.31	2.24
公園・緑地の整備状況	2.43	2.43
医療・福祉施設の充実	2.73	2.73
文化・スポーツ・レクリエーション施設の充実	2.31	2.44
観光資源・観光施設の充実	2.11	2.26
川や水路の整備状況	2.36	2.46
下水道の整備状況	2.61	2.56
災害(地震・水害等)に対する安全性	2.25	2.33
火災時の延焼に対する安全性	2.79	2.85
犯罪に対する安全性	2.89	2.99
自然環境の豊かさ	3.52	3.69
まちなみなどの景観の美しさ	2.91	3.04
総合的な住みやすさ	2.88	2.94



【地域の担っている役割】（複数回答）

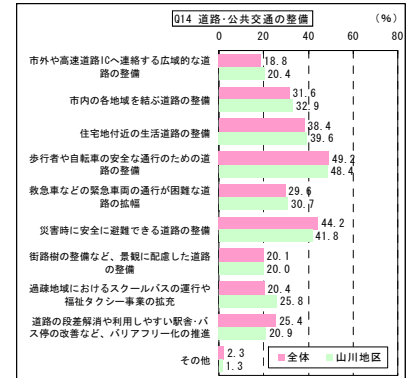
- 「良好な住環境を提供する地域」が54.2%と最も高く、次いで、「豊かな自然環境が保全される地域」、「公園・緑地などの憩いの場が充実した地域」、「医療・福祉施設が充実したまち」となっています。
- 市全体に比べて、「豊かな自然環境が保全される地域」や「良好な住環境を提供する地域」の割合が高くなっています。



【都市施設のあり方】（複数回答）

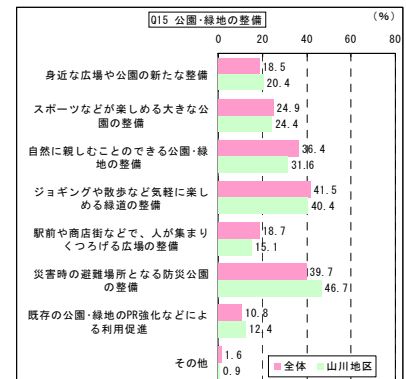
（道路・公共交通）

- 「歩行者や自転車の安全な通行のための道路の整備」が48.4%と最も高く、次いで、「災害時に安全に避難できる道路の整備」、「住宅地付近の生活道路の整備」となっています。
- 市全体に比べて、「過疎地域におけるスクールバスの運行や福祉タクシー事業の拡充」の割合が高くなっています。



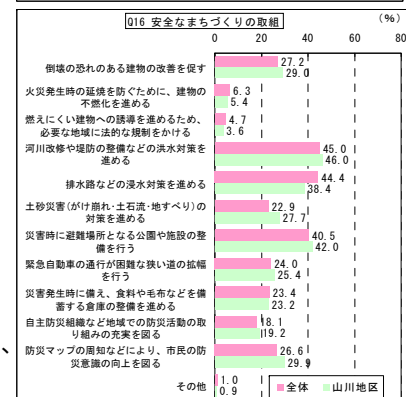
（公園・緑地）

- 「災害時の避難場所となる防災公園の整備」が46.7%と最も高く、次いで、「ジョギングや散歩など気軽に楽しめる緑道の整備」、「自然に親しむことのできる公園・緑地の整備」となっています。
- 市全体に比べて、「災害時の避難場所となる防災公園の整備」の割合が高くなっています。



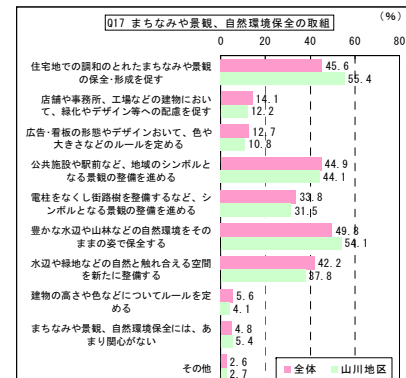
（防災）

- 「河川改修や堤防の整備などの洪水対策を進める」が46.0%と最も多く、次いで、「災害時に避難場所となる公園や施設の整備を行う」、「排水路などの浸水対策を進める」となっています。
- 市全体に比べて、「土砂災害(がけ崩れ・土石流・地すべり)の対策を進める」、「防災マップの周知などにより、市民の防災意識の向上を図る」の割合が高くなっています。



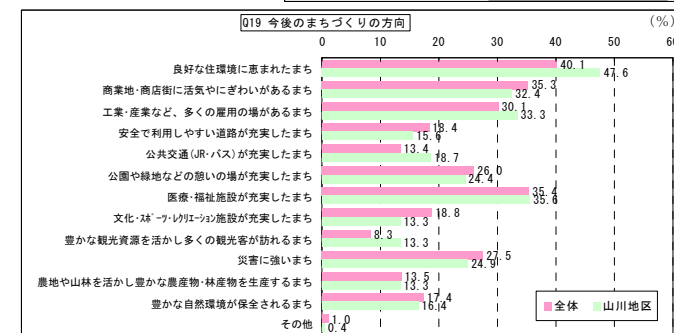
（景観・自然環境保全）

- 「住宅地での調和のとれたまちなみや景観の保全・形成を促す」が55.4%と最も多く、次いで、「豊かな水辺や山林などの自然環境をそのままの姿で保全する」、「公共施設や駅前など、地域のシンボルとなる景観の整備を進める」となっています。
- 市全体に比べて、「住宅地での調和のとれたまちなみや景観の保全・形成を促す」、「豊かな水辺や山林などの自然環境をそのままの姿で保全する」の割合が高くなっています。



【今後のまちづくりの方向】（複数回答）

- 「良好な住環境に恵まれたまち」が47.6%と最も高く、次いで、「医療・福祉施設が充実したまち」、「工業・産業など、多くの雇用場があるまち」となっています。
- 市全体に比べて、「良好な住環境に恵まれたまち」や「公共交通(JR・バス)が充実したまち」、「豊かな観光資源を活かし多くの観光客が訪れるまち」の割合が高くなっています。

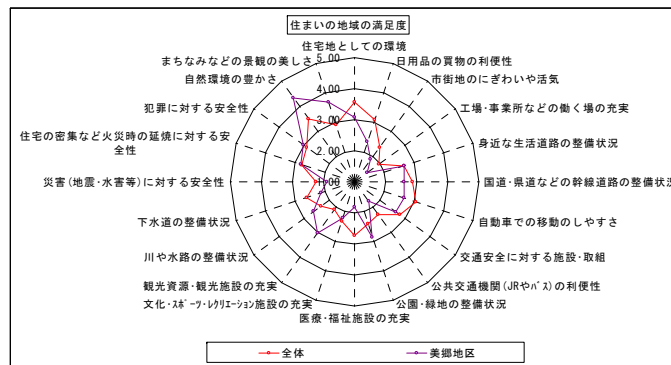
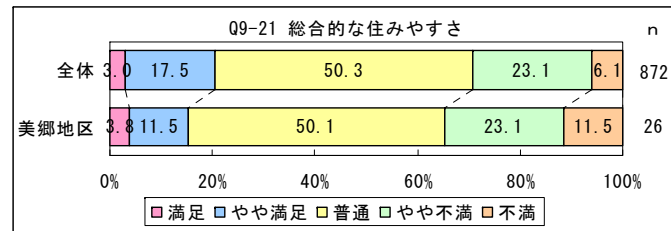


吉野川市都市計画マスタープラン策定に向けたアンケート調査 調査結果（概要版）

3-4. 調査結果の概要（地域別：美郷地区）

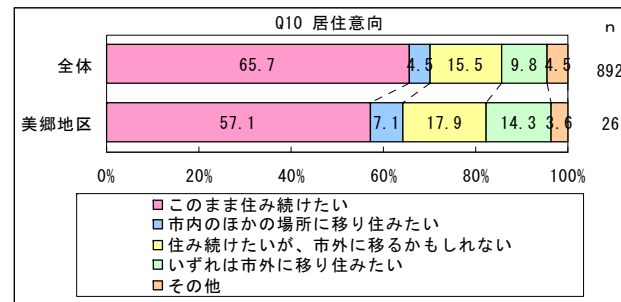
【住まいの地域の満足度】

- 総合的な住みやすさは、「満足」・「やや満足」の傾向より、「やや不満」・「不満」の傾向が高くなっていますが、市全体よりも「不満」の割合が高くなっています。
- 項目別の満足度をみると、「自然環境の豊かさ」や「まちなみなどの景観の美しさ」、「住宅地としての環境」が高い評価を受けています。
- 一方、「工場・事業所などの働く場の充実」や「公共交通機関(JRやバス)の利便性」、「医療・福祉施設の充実」などが低くなっています。
- 市全体との比較では、「観光資源・観光施設の充実」や「自然環境の豊かさ」、「まちなみなどの景観の美しさ」といった項目が高くなる一方で、「医療・福祉施設の充実」や「日用品の買物の利便性」、「公共交通機関(JRやバス)の利便性」などの項目が低くなっています。



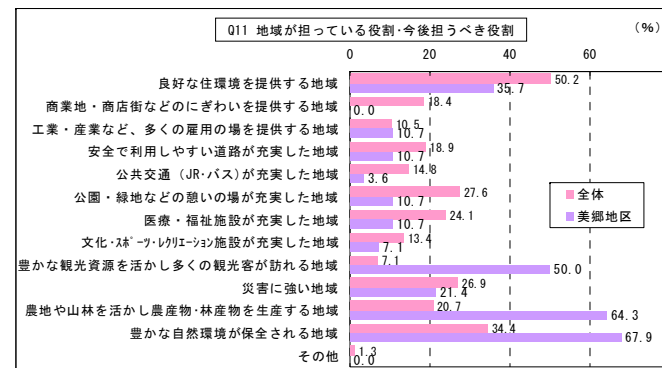
【居住意向】

- 「このまま住み続けたい」が57.1%と最も高いものの、市全体と比較して、「市内の他の場所に移り住みたい」をはじめ、地区外への転出を望む声のみうけられます。



【地域の担っている役割】（複数回答）

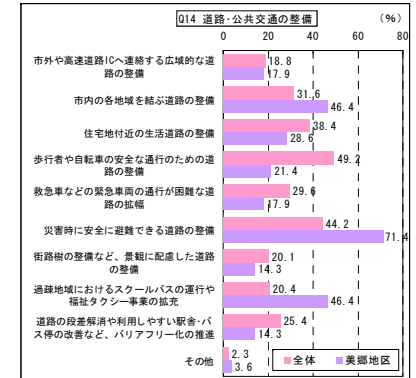
- 「豊かな自然環境が保全される地域」が67.9%と最も高く、次いで、「農地や山林を活かし農産物・林産物を生産する地域」、「豊かな観光資源を活かし多くの観光客が訪れる地域」となっています。
- 市全体に比べて、「農地や山林を活かし農産物・林産物を生産する地域」、「豊かな観光資源を活かし多くの観光客が訪れる地域」、「豊かな自然環境が保全される地域」の割合が高くなっています。



【都市施設のあり方】（複数回答）

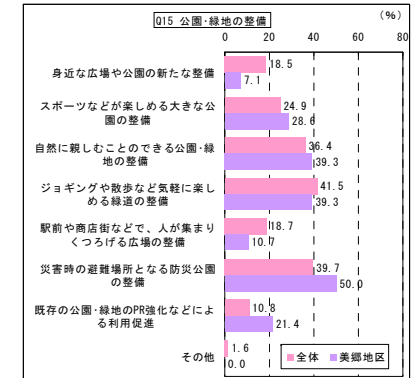
（道路・公共交通）

- 「災害時に安全に避難できる道路の整備」(71.4%)が最も高く、次いで、「市内の各地域を結ぶ道路の整備」、「過疎地域におけるスクールバスの運行や福祉タクシー事業の拡充」となっています。
- 市全体に比べて、「災害時に安全に避難できる道路の整備」、「過疎地域におけるスクールバスの運行や福祉タクシー事業の拡充」、「市内の各地域を結ぶ道路の整備」の割合が高くなっています。



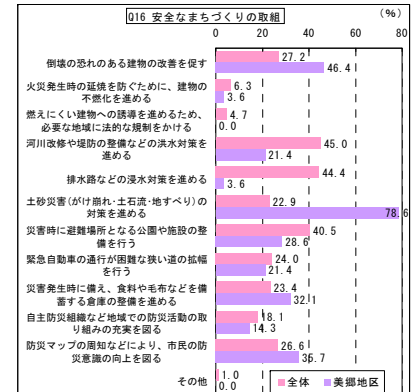
（公園・緑地）

- 「災害時の避難場所となる防災公園の整備」が50.0%と最も高く、次いで、「ジョギングや散歩など気軽に楽しめる緑道の整備」、「自然に親しむことのできる公園・緑地の整備」となっています。
- 市全体に比べて、「既存の公園・緑地のPR強化などによる利用促進」、「災害時の避難場所となる防災公園の整備」、「スポーツなどが楽しめる大きな公園の整備」の割合が高くなっています。



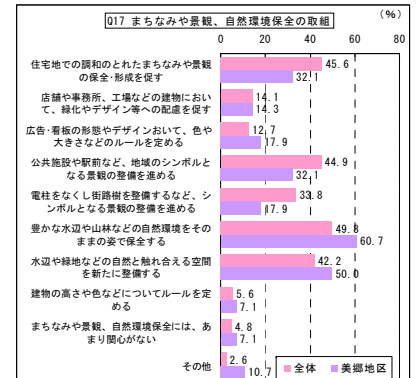
（防災）

- 「土砂災害(がけ崩れ・土石流・地すべり)の対策を進める」が78.6%と最も多く、次いで、「倒壊の恐れのある建物の改善を促す」、「防災マップの周知などにより、市民の防災意識の向上を図る」となっています。
- 市全体に比べて、「土砂災害(がけ崩れ・土石流・地すべり)の対策を進める」、「倒壊の恐れのある建物の改善を促す」の割合が高くなっています。



（景観・自然環境保全）

- 「豊かな水辺や山林などの自然環境をそのままの姿で保全する」が60.7%と最も多く、次いで、「水辺や緑地などの自然と触れ合える空間を新たに整備する」となっています。
- 市全体に比べて、「豊かな水辺や山林などの自然環境をそのままの姿で保全する」、「水辺や緑地などの自然と触れ合える空間を新たに整備する」の割合が高くなっています。



【今後のまちづくりの方向】（複数回答）

- 「安全で利用しやすい道路が充実したまち」と「医療・福祉施設が充実したまち」、「農地や山林を活かし豊かな農産物・林産物を生産するまち」の3項目が35.7%と最も高くなっています。
- 市全体に比べて、「農地や山林を活かし豊かな農産物・林産物を生産するまち」、「安全で利用しやすい道路が充実したまち」(+17.3ポイント)、「豊かな観光資源を活かし多くの観光客が訪れるまち」(+16.7ポイント)の割合が高くなっています。

